



京都薬科大
赤路健一学長

今年で創立140周年を迎え、薬科大としては最も古い歴史を持つ大学の一つだ。建学の精神は「愛学躬行」で、学問を愛し、自ら考えて実践することを意味する。本学の6年間の教育課程を通じて専門知識を身につけるだけでなく、自



京滋のトップに聞く

薬剤師養成、多彩な領域で活躍

分で考える力とリーダーシップも養い、多彩な領域で活躍できる薬剤師になってもらいたい。高校生からすれば、薬剤師は調剤薬局で働くイメージがあるかもしれないが、活躍の場は近年、製薬会社をはじめとした企業や行政機関など広がりを見せている。(住み慣れた地域で医療や介護を受ける)地域包括ケアシステムの中では、大きな鍵を握る人材だと認識されている。



京都薬科大のキャンパス

薬剤師の養成機関としての役割を担う薬学部6年制は2006年度に導入された。最初の4年で薬理学や生理学など薬や人体について学び、5年次には病院などで臨床現場を経験する。6年次に国家試験に向けた総まとめを行う。国家試験の合格率はほぼ毎年90%を超え、全国平均を大きく上回る。薬について知るためには、化学や生物など基本的な知識の土台の上に新たな知識を積み上げていくこと

京都薬科大 1884年にドイツ人博士に学んだ人々が協力して創立した京都私立独立逸学校が始まりで、私立京都薬学校を経て、1949年に京都薬科大となった。現キャンパスはJR山科駅近く。学部は6年制で、学生数は2272人(5月現在)。

が重要で、伝統と経験を生かしたカリキュラムを設けている。また、卒業後の進路が多様な面も本学の特徴だ。病院や薬局、ドラッグストアだけでなく、企業へ進む卒業生が3割近い。製薬会社のMR(医薬情報担当者)、食品会社、化

粧品メーカーなど幅広い。企業で多くの卒業生が活躍することで、安心して採用してもらえる循環が生まれていると感じる。今後は、医療を巡るデータサイエンスがより重要になると感じている。地域医療や終末期医療、データによる疫学研究などに対応できる人材の育成を考えたい。18歳人口の減少など大学を巡る課題はあるが、しっかりとした教育を提供し、卒業生がそれぞれの分野で活躍してくれれば、選ばれる大学であり続けられると思う。進むべき本来の道を正々堂々と歩んでいきたい。